



弘前大学同窓会報

第 26 号

発行日 令和7年3月31日
発行者 弘前大学同窓会
題 字 吉田 豊 元学長



同窓会活動の活性化と 弘前大学の持続的発展への期待

同窓会会長 高谷 清孝

同窓生の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。早いもので、同窓会長に就任して1年半余りが経過いたしました。この間、同窓会の活動として、理事会等の開催のほか、吉田基金「TOEIC賞」の授与などに携わりました。「TOEIC賞」は、学生の英語力向上に資することを目的に、故吉田豊元学長のご寄付によって「吉田基金」が創設され、TOEICの成績優秀者へ授与しているもので、平成14年に開始して以来、これまで55人が受賞しています。また、同窓会以外の行事では、弘前大学の卒業式と入学式のほか、大学が令和6年度からスタートさせた「弘前大学校愛会事業」のうち、東京都内と大学構内で行われた卒業生と学生・教職員との交流イベント「ホームカミングデイ」に参加させていただきました。卒業式や入学式では、40年以上も前の学生当時のことが懐かしく思い出され、一方、「ホームカミングデイ」では、両会場ともに卒業生の参加者はそれほど多くはありませんでしたが、先生方を囲むなどして和やかに談笑する輪がいくつもできるなど、素晴らしい取り組みだと感じました。

現在、各学部においては、それぞれ独自性を生かして同窓会活動が展開されておりますが、校愛会事業と組み合わせることで、学部同窓会の活動の活性化に繋げられる可能性があるのではないかと思います次第です。

さて、私は長らく弘前市に住んでいますが、近年、地元の新聞やテレビなどで弘前大学の取り組みを目にする機会が増えたように感じています。以前よりも自宅で過ごす時間が長くなったからなのかも知れませんが、さまざまな分野での技術開発や新発見などのほか、地元企業等との食品の共同開発や県内自治体等との連携協定の締結など多岐に渡っており、弘前大学が目指す「世界に発信し、地域と共に創造する」取り組みそのものであると高く評価しています。特に、県内の各自治体においては、人口減少や若者の流出などさまざまな課題に直面しており、弘前大学が有する豊富な人的資源を今後のまちづくりや産業振興策などに活かすことで、解決への糸口が見いだせるかも知れません。また、我が国では、今後も子供の数が減り続けていくものと思いますが、そうした中で、弘前大学が研究内容や取組成果などを広く発信していくことは、他大学と伍して県内外から優秀な学生を獲得することはもとより、持続的な発展を図る上でも極めて重要であると考えており、これからも続けていかれることを期待いたします。

同窓生の皆様には、引き続き、弘前大学や学生へのご支援、並びに同窓会へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



新たな希望と課題

弘前大学長 福田 眞作

コロナ禍の収束により大学運営に多少の余裕が生まれるのでは…と期待しましたが、現実には新たな課題に直面しています。職員の人件費や教育活動に充当される運営費交付金が依然として削減され続ける中、大学は競争的な外部資金の確保やポイント制を活用した人件費の効率化の他、様々な経営努力を重ねて、人事院勧告に基づく給与改定や定期昇給にも対応してきました。しかし、近年の急速な物価上昇により賃上げ要求が高まり、令和6年度には想定を上回る人事院勧告が示されました。次年度も厳しい勧告が予想されており、さらなる人件費増加を見据えた大学運営の舵取りに苦心しているところです。これらの人件費増加分については国からの支援を受けることはなく、大学が自らの財源で賄う現状は広く認識されていません。すべての国民に平等な高等教育の機会を提供し、市場原理を超える価値を創出する研究活動を行うことは、国立大学の重要な使命です。この役割を果たすためには経済的基盤を強化する政策的支援が不可欠であり、その早急な実現を強く望んでいます。

昨年の会報で報告した「地域中核・特色ある研究大学促進事業」ですが、令和6年度の申請において採択の栄誉を勝ち取ることができました。日本全国の793大学（国立大学法人86大学、2023年度）の中から、弘前大学が「地域中核・特色ある研究大学」（25大学）の一つに指定されたことは、

単なる外部資金の獲得にとどまらず、「日本の研究大学」というブランドを獲得するとても意義深い成果です。今後は、国際卓越研究大学とともに、日本全体の研究力向上に貢献する研究大学群の一員として、本学の特色ある研究力を核に据え、戦略的経営の下、他大学との協働、研究活動の国際展開、社会実装の加速を図ってまいります。

本誌の題字は、令和5年12月19日に逝去された吉田豊元学長による揮毫です。私の恩師でもある吉田豊先生は、「世界に通用する教育・研究の実現」と「地域とともに発展する大学」を目標に掲げ、本学のスローガンとして「世界に発信し、地域と共に創造する」を策定されました。このスローガンは、今後も弘前大学の精神として受け継がれていくことでしょう。また、弘前大学同窓会（以下、全学同窓会）の設立を提唱されたのも吉田豊先生であり、大学創立五十周年記念式典の前日（平成11年6月4日）に「母校・弘前大学の発展の礎」として全学同窓会が設立されました（本誌第14号、三上巽同窓会長寄稿より）。各学部の同窓会、全学同窓会、そして昨年誕生した「校愛会」が連携し、在校生、教職員、卒業生、さらには本学を応援してくださる方々とのネットワークの輪を拡げていきたいと思っています。

結びに、本学のさらなる発展に向けて、皆様の引き続きのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

弘前大学ホームカミングデイ in 東京を開催

弘前大学では本学と学生及び卒業生との新たなネットワークを構築するため、2024年4月1日より「弘前大学校愛会」をスタートしました。

弘前大学校愛会では、メールマガジンや校愛会ホームページ等を活用した様々な情報発信・情報収集、本学と学生・卒業生の交流イベント等の実施、学部同窓会への支援を行っています。ここでは、2024年9月7日に学術総合センター（東京都）にて開催したイベント「弘前大学ホームカミングデイin東京」についてご紹介します。

このイベントは昨年度まで開催の「弘大卒業生の集い」を引き継ぎリニューアルした企画で、当日は、高谷同窓会長をご来賓に迎え、30名の卒業生にご参加いただきました。福

田学長の開会挨拶に続き、藤波総務担当理事より弘前大学の近況についての報告、キャンパスツアーガイドの学生2名からの発表を行いました。

続いて、各界で活躍する本学卒業生等に弘前大学の知名度向上を図る活動を委嘱する「弘前大学応援大使」の任命式が行われ、教育学部卒業の米谷明子さん（株式会社ベネッセコーポレーション・たまごクラブひよこクラブ統括編集長）に福田学長から任命状が手渡されました。



応援大使の米谷さんと福田学長



交流タイムの様子

交流タイムでは、弘前大学津軽三味線サークルによる三味線演奏なども楽しつつ、思い出話に花が咲いたり新しいつながりができたりと、



参加者全員での集合写真

【弘前大学校愛会HP】 <https://hirosaki-u-kouaikai.alumnet.jp/>



大学イメージポスター

「学ぶ街は、暮らす街でもある。」

広報室では、弘前大学で学び、弘前で暮らす良さをお伝えするため、「学ぶ街は、暮らす街でもある。」をコンセプトにしたイメージポスターを制作しています。弘前大学のブランディングの要となる本ポスターは、平成26年度に3枚、その後、令和2年度から毎年1枚ずつポスターを制作しており、全7枚となります。ポスターデザインは“1ビジュアル、1コピー”を軸に、「1人の学生が弘前の街に溶け込み、佇んでいる風景」と「学ぶ街は、暮らす街でも

ある。」のキャッチコピーで構成。弘前の街にフォーカスしながらも、「弘前の観光ポスター」にはならないようなスポットを選び、平成26年度から一貫したコンセプトで制作しています。

モデルは、学内や課外活動でキラリと光る本学の学生に広報室が「大学イメージポスターのモデル、やりませんか」とオファーをしています。

場所・モデルが決まると、打合せや衣装・小物選び、撮影許可が必要な場合はその手続きを行います。ポ

スター撮影と並行して動画撮影やナレーション撮りも行うので、モデル学生の学業に影響が出ないよう、撮影チームとの綿密な日程調整も必要になります。

令和2年度～令和5年度に制作した4枚のポスターは「弘前の四季」をテーマに、全て屋外で撮影しています。屋外の撮影で大変なのが「天候に左右される」ということです。令和5年9月に公開した「冬」ポスターでは、猛吹雪に見舞われ撮影が中断、また、撮影に時間を要したた

め教会のライトアップが消え、別日に改めて撮影したこともありまし。しかしながら、苦勞するほど撮影チームが一致団結するという雰囲気を感じることができました。

このように「学ぶ街は、暮らす街でもある。」を地道に続けてきたことで、弘前大学のブランドイメージが少しずつ定着しつつあります。今後もポスターを通して、本学の認知度が更に向上するよう、「弘前大学ブランド」のPRに取り組んで参ります。



令和2年度～令和5年度に制作したポスター

イメージポスターが「JR東日本賞」受賞

令和5年度に新青森駅や函館駅に掲出した大学イメージポスターが、株式会社ジェイアール東日本企画が主催する「交通広告グランプリ2024」の「JR東日本賞」を受賞しました。

「交通広告グランプリ」とは、同社が主催する交通広告作品を対象とした作品賞です。6部門から構成され、今年度の審査総作品数は1,506点で、38作品が受賞しました。今回本学が受賞した「JR東日本賞」はグランプリと同様に、部門を越えて全応募作品の中から1点のみ選出されるものです。

2024年7月29日（月）、「交通広告グランプリ2024」の贈賞式がホテルメトロポリタン池袋にて執り行われ

ました。若林孝一理事（企画担当）・副学長が代表として登壇し、受賞の喜びとともに関係各位に謝辞を述べ、審査講評では、「学びやすさと住みやすさを共に訴求することで『弘前』というブランドを相乗効果で強くしていました」と評価されました。

人口が約16万人の「弘前市」は、適度なサイズ感で豊かな自然や城下



謝辞を述べる若林理事

理工学部通信



理工学の力で

理工学研究科長
金本 俊幾

令和6年3月より理工学研究科長を務めております金本俊幾です。

東北自動車道は青森を終点とし、その沿線にはシリコン（ケイ素）を活用した半導体関連産業の工場が多く立地しています。この地域は「シリコンロード」とも呼ばれ、物流の要所として重要な役割を果たしています。半導体を代表とする電子デバイスの開発・生産・応用には、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を視野に入れた課題解決が求められ、理工学の幅広い知識と技術が不可欠です。

理工学部は、理学系の「数物科学科」「物質創成化学科」「地球環境防災学科」、工学系の「電子情報工学科」「機械科学科」「自然エネルギー学科」の6学科を擁し、理工融合を通じて社会の多様な課題解決に貢献する教

育と研究を展開しています。その成果のひとつとして、電子デバイスや情報技術（IT）、エネルギー産業、化学・素材産業など多くの分野へ優秀な人材を輩出しています。

今後は、青森県内での人材定着率向上や、エネルギーの確保、気候変動対策、産業と技術革新の基盤強化など、SDGsに関連するさまざまな課題に取り組む必要があります。これらの課題を解決するためには、再生可能エネルギー技術の開発や循環型経済を実現するリサイクル技術の革新、AIやIoTを活用した社会の効率化などを推し進めることが求められますが、そこには学内外の連携と協力が不可欠です。

本学部では理工学の力を結集し、課題解決に向けた研究開発とともに、次世代を担う人材の育成や地域における産業の活性化などを通して、これらの課題を共に乗り越えていく所存です。皆様におかれましても、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

農学生命科学部通信

リンゴの新品種「麒麟児」

附属生物共生教育研究センター 助教
林田 大志

2024年9月17日、弘前大学から出願したリンゴの新品種「麒麟児（きりんじ）」が農林水産省に品種登録されました（登録番号：30451）。この品種は鳥取県八頭町在住の果樹生産者丸山茂氏（現在99歳）によって発見されました。丸山氏は植栽した「ふじ」の木の一枝が通常とは異なり大型で早期に成熟する果実を産することを確認しました。鳥取大学の研究者を通じて弘前大学の松本和浩助教（当時、現・静岡大学教授）と連携し、2009年から品種登録に向けた研究を開始しました。松本氏の異動後、後任の私が研究を引き継ぎ、藤崎農場の技術職員の藤田知道氏、佐藤早希氏とともに栽培、貯蔵、倍率性研究等を行い、通常のふじとは異なる特性をもつ枝変わり品種であることを確認し、品種登録に至りました。

「麒麟児」は果皮が赤く、500g以上の大型果実をつける3倍体の品種です。津軽地域における収穫期は10月中旬～下旬で、ふじよりも半月ほど早く収穫されます。甘酸適和で蜜も入り、香りも良好です。そのため、贈答用、輸出用としての需要も見込んだブランド展開が期待されています。品種名「麒麟児」には次のような由来があります。①発見地の鳥取県因幡地方では、真っ赤な衣装をまとった麒麟獅子舞（国指定重要無形民俗文化財）があり、赤と金を基調とした勇壮な姿と品種のイメージが一致していること。②「麒麟児」には「将来性のある若者」という意味があり、本品種を食べた若者に末永く大成してほしいという願いが込められていること。

異なる地域の大学が連携し、果樹生産者の発見を品種登録に導いたこれまでにない地域連携、地域貢献の成果です。ぜひこの背景を多くの皆さんに知っていただき、「麒麟児」の栽培が広がるようご協力をお願い申し上げます。

人文社会科学部通信

下北の高等学校で活躍する
弘前大学卒業の教員たち青森県立大湊高等学校 教頭
田澤 和康(平成6年 人文学部人文学科
平成8年 大学院人文科学研究科修了)

当時は「人文科学研究科」であった弘前大学大学院を修了してから28年、私は青森県の県立高等学校教員として県内各地の高等学校に勤務してきた。東青・西北・中南・上北・下北・三八の6地区からなる青森県であるが、このうち西北地区を除く5地区の高等学校に、勤務年数の長短はあるがこれまで勤務してきた。今後西北地区の高等学校に勤務すれば、青森県内全地区の高等学校への勤務を達成することになる。

私は現在、下北地区の大湊高等学校に勤務している。赴任して思ったのは、教員に弘前大学の卒業生が意外に多いということだった。前任校は中南地区の高等学校だったから、当然教員には弘前大学の卒業生が多

かった。しかし、下北地区の高等学校では、少ないだろうと高をくくっていた。義務教育の学校であれば、弘前大学の（教育学部の）卒業生が教員の多数を占めるだろうけれど、教育学部以外の学部で教員免許状を取得できる高等学校教員の場合、弘前から距離の離れた下北地区では、教員は様々な大学の卒業生で構成されるだろうと考えていたのだ。

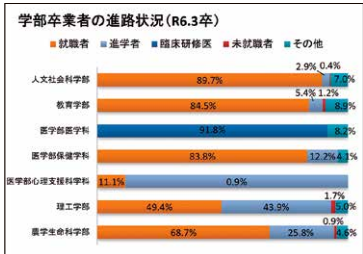
けれども、45名の大湊高等学校の教員中弘前大学の卒業生は12名で、3分の1弱を占めていた。そして、平均年齢が36歳と若い教員集団の学校にあって、弘前大学の卒業生である若手教員は、実によく教育活動に励んでいる。学力差があり多様な生徒に対して、学習指導・生徒指導など一生懸命に取り組み、さまざまな課題解決に向けて果敢に挑んでいる。このうち数名は、弘前大学教職大学院の現職教員向け研修にも参加していた。大湊高等学校に勤務している弘前大学卒業生の中で一番年長の者として、誇れる後輩たちの活躍に目を細める毎日である。

弘大生の就職状況

キャリアセンターでは、学生の就職相談をはじめ、就職ガイダンスや学内企業説明会の実施など、様々な就職支援を行っています。就職活動を取り巻く環境が大きく変化する中、令和5年度学部卒業者の就職率は98.8%で、対前年度比0.2ポイント増となり、歴代3位の就職率となりました。

就職先の状況を地域別に見てみると、青森県内への就職者は、全就職者879人のうち231人で、26.3%を占めて第1位、次いで北海道が178人で20.3%を占めています。

青森県出身学生の県内定着率はこ

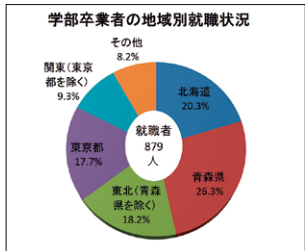


町の文化があり、「春は桜、夏はねぶたまつり、秋はりんご、冬は雪」と季節ごとに異なる表情を見せてくれる趣のある街ですが、この弘前市をステージとして、「学ぶ街は、暮らす街でもある。」は「弘前大学で学ぶ = 弘前で大学生活を過ごすこと」をコンセプトに、弘前で暮らす学生が弘前の街の風景に自然に溶け込んでいるシーンをポスターで表現しています。



贈賞式会場の様子

キャリアセンターから



こ数年約60%と横ばいが続いており、大きな変動はありませんでした。

また、大学院などへの進学者は、263人（前年度257人）となり、最も高い進学率となりました。

業界研究・企業等研究への支援

キャリアセンターでは、学生の皆さんが職業観や就業機会について考えること、業界や企業を理解し、その魅力等を知ってもらうことを目的に、キャリア教育の一環として企業等見学バスツアーを実施しています。今年度も、9月末週に弘前・青森・八戸の3つのコースで行いました。

弘前らしさを出しつつも、観光ポスターにならないことを意識しながら、「地域の魅力＝大学の魅力」であることがしっかりと伝わるよう、一貫したコンセプトで制作が続けてきた作品が評価されたことは大変喜ばしいことです。引き続き、「弘前大学ブランド」のPRに活用していく予定です。

また、「学ぶ街は、暮らす街でもある。」は紙媒体だけでなく、季節ごとの動画も制作しています。高校生・学生・卒業生・地域の方々など、社会全体の皆さまに見ていただくために、ホームページやYouTubeチャンネル等で公開しておりますので、ぜひご覧ください。

■弘前大学公式YouTube



参加した学生からは、「興味の無い業界についても一度に学ぶことができる良い機会だった」、「実際に働いている人のお話を聞くことができて大変有意義な時間となった」など、収穫があったという感想が大多数で、本企画が学生にとって視野を広げる良い機会となったと感じられ



医学部医学科通信

コロナ禍での鵬桜会

鵬桜会理事長

澤田 美彦

(昭和51年 医学科卒)

医学部医学科の同窓会である鵬桜会には4つの活動目的があります。もちろん卒業生のための活動が第一ですが、全国に広がる卒業生を対象とする活動には制限があります。会員への情報提供として鵬桜会報を2年に1回発行し、同窓会名簿は3年に1回更新して配布しています。また、ホームページを開設して活動内容を発信しています。

医学科の学生は鵬桜会学生会員です。学生に対しては、4月の新入生歓迎会を初めとして、医学祭、東日本医科学生体育大会、各文化部、国試対策などへの助成を行っています。新入生歓迎会での懇親会は立食形式で行っていましたが、新型コロナウイルス感染症のために令和3年からは懇親会は行われていません。

医学部に対しては、弘前医学会と

ました。

全国で本学出身者が高い評価

令和6年度のキャリアセンター主催合同企業説明会・研究セミナーには、弘前大学の学生を採用したい、当社に興味を持ってもらいたいと、全国各地から予想を上回る600社以上の参加申込がありました。

これもひとえに弘前大学卒業生皆様のご活躍の賜物と感謝申し上げます。これからも高い評価を維持できるよう、職員一丸となって学生のキャリア教育や就職支援の充実に取り組んでまいりますので、同窓生の皆さまからも学生へのご支援をいただければ幸甚に存じます。

全国規模の医学会主催への助成、医学部学術賞への助成をしています。学術賞の副賞は鵬桜会賞としてメダルが授与されます。メダルには鵬桜会にちなんで鵬、弘前のシンボルである桜、そして世界をイメージして地球を配しています。また、理事長として学位記伝達式にも出席してお祝いの言葉を述べています。

弘前大学に対しては、全学同窓会との連携、弘前大学基金への協力などを行っています。弘前大学が行っているコロナ禍での学生への支援でも鵬桜会会員の貢献が大きかったと思っています。

令和6年12月現在、会員数は4,632人です。平成21年までは卒業生を自動的に会員として登録していましたが、現在は任意加入制度となりました。加入する卒業生は近年極端に減少しています。鵬桜会の活動は会費だけで成り立っています。今後できるだけ多くの卒業生に会員登録していただき鵬桜会の活動が活発になるようにしたいと思っています。

教育学部通信

教職支援室から

佐藤 忠浩

(昭和61年 教育学部卒)

開設14年目を迎えた教職支援室に、2025年度の教員採用試験に向け3年生の姿が少しずつ増えてきました。当室では、学生の教員採用試験受験にあたり、4名のスタッフで小論文、個人調書、個人面接、集団討論など主に二次試験に向けた指導を行っています。利用は希望制ですが、教育学部はもとより人文、理工、農生と全学の教職志望の学生に対応しています。

最近、教員のなり手不足や小学校教員の受験倍率の低下が大きな話題となり、試験の前倒しや早期化、内容の軽減など、この3年間で教員採用を巡る状況は激変しています。そのような中、毎年延べ4,500人を超える学生が当室を利用し、受験自治体も北海道、東北、関東はもちろん、年々広範に渡ります。そんな学生の大きな手助けになるのが、これまで

代々の学生の手で編集作成されてきた冊子「教職へのとびら」と、卒業生が残してくれた小論文や自己PR



書の前稿、試験の概要報告です。

先輩の学びの足跡を辿りながら自らの夢の実現を果たすという、まさに弘前大学の「お宝」です。支援室利用学生の報告では、2024年度全校種合わせて7割の合格率になり、これも「お宝」あつてのことです。

学生の「教師になりたい」という思いを「教師になる」という強い決意に変容させていけるよう、今後もチーム教職支援室でサポートしてまいります。

医学部保健学科通信

保健学科設置25周年を前に

保健学研究科作業療法学専攻 講師

小枝 周平

(平成17年 保健学科
平成24年 大学院医学研究科修了)

保健学科は、2000年10月1日付けで、それまでの弘前大学医療技術短期大学部（昭和50年4月設置）と弘前大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程（昭和43年4月設置）を統合して、弘前大学医学部に新しい学科として設置された。今年は創設25周年の節目の年となる。

私は、保健学科の1期生として入学したが、そこから早25年経過しようとしているとは、月日の流れの速さに驚くばかりである。しかしながら、その間には、新校舎の建設や、大学院や新学科の設立など多くの大きな変革があった。近年では、大学院に心理支援科学専攻が設置され、心理支援専門職の養成を担うようになった。いまだ発展途上ではあるものの、この25年で保健学科は、か

らだところをみることができるよう優秀な専門家を多数輩出する環境が整備され、地域の医療・福祉に貢献する地盤が整ってきたように思える。

また、保健学科の卒業生の近況を聞くと、専門知識を活かして開業された方、専門領域で国際的に活躍する著名な研究者になられた方など、大学時代に習得した知識・技術を基盤に大きな活躍をされている話を耳にする機会も多い。25年という月日は、組織や人を大きく成長させるのに十分な時間であるのだろうと改めて感じる。この成長にご尽力いただいた大学時代の恩師たちもご定年を迎え、いまは第二の人生を歩んでいる方も多い。自分が学んできた環境がどれほど充実したものであったのか、そのためにご尽力いただいたご苦勞はいかほどであったものかと感じる日々が続いている。

保健学科は、これから節目を迎え、さらに成長をしていく必要があるが、その一翼を担えるようになりたいものである。

2023年度学祭本部実行委員長
家上 凌弥 (理工学部3年)

令和5年度の第22回弘前大学総合文化祭(以下、総合文化祭)は、10月21日(土)と22日(日)の2日間、4年ぶりに開催されました。毎年10月の恒例行事として今年度はほぼ制限のない開催となり、総合文化祭に活気が戻ったように感じました。加えて10月20日(金)に学内限定として開催された前日祭では、バンド系サークルによるイベントが行われ、多くの学生に足を運んでいただき、限定ならではの盛り上がりを見せていました。

今回の総合文化祭テーマ『共炎(きょうえん)』には、コロナ前と変わらない盛り上がりと共に作ってきたいという願いが込められています。総合文化祭というステージで全員が【共炎】し、燃え盛る炎のような盛り上がり、多くの人と共に作り上げていきたいという願いが込められています。2日間で約4,800人の



総合文化祭

諸事情により前号にて未掲載となった令和5年度を合わせた2年度分の開催報告です

方に来場していただき、このテーマにふさわしい、とても盛り上がる総合文化祭となったように感じました。

2日間にわたる部活・サークル出店では作品の展示や体験などその部活・サークルの特色ある出展や、個性的な店名でおいしいものを売っている屋外出店、各学部の特色ある企画で総合文化祭を大いに盛り上げていただきました。Opening FestivalやFinal Festival、Performance Show 2023、お笑いスペシャルライブなど、メインステージは2日間常に賑わいをみせていました。総合文化祭の終わりを告げる『花火』は、あいにくの大雨の中で行われましたが、雨空に花火がとてもよく映えていたのが印象的でした。

最後に開催にあたり、近隣地域住民のみなさま、企業のみなさま、本学の教職員のみなさまなど非常に多くの方にご協力をいただきました。実行委員を代表してここに厚く御礼申し上げます。総合文化祭がみなさまの思い出に残るものとなっていれば幸いです。来年度もぜひ足をお運びいただければと思います。

2024年度学祭本部実行委員長
齊藤 将空 (理工学部2年)

令和6年度の第23回弘前大学総合文化祭(以下、総合文化祭)は、10月18日(金)から20日(日)にかけて令和元年度以来、実に5年ぶりに3日間開催とすることができました。

福田学長の開会宣言、Opening Festivalと続き、好天の中、総合文化祭が始まりました。初日には青森県のご当地アイドルMEGOiDOL様によるスペシャルライブが行われ、会場は大盛り上がりでした。続く2日目の午前は悪天候に見舞われ、屋外出店及びイベントを一部中止する事態となってしまいました。そのような中、第一体育館へ会場を変更して行われたよさこい弘大には多くの観客が押しかけ、雨をも吹き飛ばす賑わいを見せていただきました。その甲斐があったのか、午後になると天気が急激に回復し、2日目の夜には、今年誕生したイベントの1つであるバンド系サークルによる野外音楽ライブが行われ、ステージ前には聞き入る人が多くいらっしゃいました。最終日の午前には、これも今年誕生したイベントであるダンス系

サークルによる屋外イベントが行われ、その圧巻のパフォーマンスに観客は魅了されていました。午後になると、目玉イベントである、おいでやす小田さんと大谷健太さんによるお笑いライブが行われ、あまりの人氣にステージ周辺は身動きが取れないほどの人で埋め尽くされ、会場全体が笑いで包まれていました。最後のイベント花火には、会場に残っている人々が来年への思いを馳せながら見入り、総合文化祭は幕を閉じました。



今回のテーマ「夢双」には、弘大生が持つ夢や目標が総合文化祭という舞台を通すことで、より一層弘前大学とともに飛躍していったほしいという思いが込められており、総合文化祭はそのテーマにふさわしいものとなったのではないのでしょうか。最後になりますが開催にあたり、本学教職員を始め、地域の皆様・企業様のご協力をいただきました。多くの方々の支えの下、総合文化祭を無事に終えることができましたこと、実行委員会を代表してここに厚く御礼申し上げます。

「吉田基金」TOEIC賞授与式

同窓会では、平成14年より弘前大学の国際化教育の支援を目的として、TOEICの高得点者(990点満点中900点以上)を対象とし、審査の上で賞状と副賞を授与しています。

令和6年度は、医学部医学科2年の白川歩さんが970点、農学生命科学部3年の矢沢建樹さんが965点で受賞し、令和7年1月17日に授与式が行われました。

高谷同窓会長から、故・吉田豊同窓会名誉顧問による本賞制定の紹介と、英語力を強みに活躍いただきたいとの激励がありました。



白川さんからは、幼少期のホームステイ経験で感じた英会話の楽しさから海外に興味を持ち、その後バックパッカー旅行にて感染症に罹患し、その治療を受けた恩恵から医師を志したとのお話がありました。矢沢さんからは、幼少期4年間程の米国生活を経て帰国し、その後も英語の勉強を続けながら海外への興味が膨らむ中で、今後は発展途上国の成長支援に関する道に進みたいとのお話がありました。

この度の受賞を糧にして、世界を視野に入れた今後の活躍を期待します。

令和6(2024)年度 弘前大学同窓会役員名簿

顧問	遠藤 正彦	弘前大学元学長
顧問	佐藤 敬作	弘前大学前学長
顧問	福田 眞	弘前大学学長
顧問	三上 一	弘前大学同窓会元会長
顧問	西澤 正	弘前大学同窓会元会長
顧問	相馬 孝	弘前大学同窓会前会長
会長・理事	高山 暢	農学生命科学部同窓会会長
副会長・理事	小山内 信	医学部保健学科さくら会会長
副会長・理事	千葉 欽	理工学部同樹会会長
理事	森岡 吾	人文社会科学部同窓会会長
理事	新谷 弘	人文社会科学部同窓会副会長
理事	葛西 恒	教育学部同窓会会長
理事	對馬 浩	教育学部同窓会副会長
理事	澤田 美	医学部医学科鶴桜会理事長
理事	澤田 雅	医学部医学科鶴桜会常務理事
理事	千葉 満	医学部保健学科さくら会副会長
理事	山 佳	理工学部同樹会副会長
理事	熊谷 幸	農学生命科学部同窓会副会長
監事	福島 成	教育学部同窓会事務局長
監事	糠塚 い	理工学部同樹会会員

令和5(2023)年度 弘前大学同窓会決算報告書

1. 収入の部			
項	目	令和5年度予算額	令和5年度決算額
前年度繰越分		2,041,491	2,041,491
同窓会費			
人文社会科学部同窓会		185,500	185,500
教育学部同窓会		112,000	112,000
医学部医学科鶴桜会		78,400	78,400
医学部保健学科さくら会		140,000	140,000
理工学部同樹会		252,000	252,000
農学生命科学部同窓会		150,500	150,500
預金決算利息		18	21
計		2,959,909	2,959,912
2. 支出の部			
項	目	令和5年度予算額	令和5年度決算額
印刷費		320,000	287,687
役務費		298,220	305,676
会議費		30,000	6,640
旅費		5,000	0
通信費		5,000	3,692
消耗品費		3,000	792
雑費		30,000	111,220
繰り越し・予備費		2,268,689	2,244,205
計		2,959,909	2,959,912

令和6(2024)年度 弘前大学同窓会事業予算書

1. 収入の部			
項	目	令和5年度決算額	令和6年度予算額
前年度繰越分		2,041,491	2,244,205
同窓会費			
人文社会科学部同窓会		185,500	0
教育学部同窓会		112,000	112,000
医学部医学科鶴桜会		78,400	78,400
医学部保健学科さくら会		140,000	0
理工学部同樹会		252,000	252,000
農学生命科学部同窓会		150,500	0
預金決算利息		21	21
計		2,959,912	2,686,626
2. 支出の部			
項	目	令和5年度決算額	令和6年度予算額
印刷費		287,687	74,737
役務費		305,676	54,483
会議費		6,640	30,000
旅費		0	5,000
通信費		3,692	5,000
消耗品費		792	3,000
雑費		111,220	30,000
繰り越し・予備費		2,244,205	2,484,406
計		2,959,912	2,686,626

令和6(2024)年度 弘前大学同窓会事業計画

1. 事業内容	
(1) 大学現況内容等の会報(年1回)の発行	
(2) 各学部同窓会間の連絡調整	
(3) 弘前大学同窓会ホームページ活用業務	
(4) 大学関係催事等への後援・協賛	
(5) 弘前大学校友会事業との連携	
2. 事業費	
(1) 印刷費	307,000円
・会報26号作成	290,000円
・封筒(角2)作成	17,000円
(2) 役務費	298,220円
・役務 @1,147円×260時間=298,220円	
(3) 会議費	30,000円
(4) 旅費	5,000円
(5) 通信費	5,000円
(6) 消耗品費	3,000円
(7) 雑費	30,000円
事業費計	678,220円

令和6(2024)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業計画

1. 事業内容	
(1) 国際化教育支援	
2. 事業費	
(1) TOEIC 賞副賞	200,000円
・100,000円×2名分	
事業費計	200,000円

令和5(2023)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」決算報告書

1. 収入の部			
項	目	令和5年度予算額	令和5年度決算額
前年度繰越分		1,000,160	1,000,160
寄附		0	1,000,000
預金決算利息		8	8
計		1,000,168	2,000,168
2. 支出の部			
項	目	令和5年度予算額	令和5年度決算額
TOEIC賞副賞		200,000	200,000
繰り越し・予備費		800,168	1,800,168
計		1,000,168	2,000,168

令和6(2024)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業予算書

1. 収入の部			
項	目	令和5年度決算額	令和6年度予算額
前年度繰越分		1,000,160	1,800,168
寄附		1,000,000	0
預金決算利息		8	8
計		2,000,168	1,800,176
2. 支出の部			
項	目	令和5年度決算額	令和6年度予算額
TOEIC賞副賞		200,000	200,000
繰り越し・予備費		1,800,168	1,600,176
計		2,000,168	1,800,176

私たちが編集しました

委員長 一條 健司
委員 菊地謙太郎 葉山 茂
佐藤 文紀 小山内 剛
田村 一朗 樋口 毅
小枝 周平 千葉 満
芹田美穂子 松崎 正敏
栗田 大輔



弘前大学同窓会事務局
TEL 0172(39)3490

編集後記

◇イメージポスターを目にした同窓生各位が、四季ごとに弘前を訪れ、「学んだ街は、暮らした街でもある。」と題し、イメージポスターと同様の構図で撮影した写真を持ち寄り、ホームカミングデイに集う。そんな賑やかなイベントが定着し広まるイメージが心のポスターに結像する。

◇集う同窓生の口から過去の話が出るのは通例だが、高谷会長、福田学長、各学部通信の記事にインスパイアされ、大学の更なる発展や将来ある在学生を支援する企画話が多数出揃い、総合文化祭の様相を呈することを期待する。

訃報

弘前大学同窓会監事及び元編集委員の福島成利様(昭和53年教育学部卒)は、2024年5月24日死去。68歳。謹んで哀悼の意を表します。